



時代は5世紀の終り、ワカササギ皇子

(後の25代武烈天皇の皇太子時代)と

平群地域を拠点とする、有力豪族

平群真鳥(マトリ)の子、鮪(シビ)が

妙齡の美女、物部影媛(カゲヒメ)をめぐり繰り広げる。

そのころ影媛の父、

物部鹿鹿火(アラカビ)は石上地域の

豪族で軍事集団の長として大和朝廷で

重きをなしつつあった。

自分の娘、影媛が平群の鮪を思い、

悩んでいる姿を見るにつけ

一方で天皇家への忠誠を尽くさなければ

ならない自分の立場に苦しむのである・・・

(日本書紀卷十六武烈記・参照)